

新しい大豆奨励品種「はれごころ」



品種の特性

- 「サチユタカ」と比較して紫斑粒、裂皮粒、しわ粒等の障害粒の発生が少なく、**品質に優れる**（表1）。また、収量性は同等以上であり、草姿は「サチユタカ」に類似する（表1、図1）。
- 成熟期は「サチユタカ」より7日程度遅く、**作期分散が図れる**（表1）。
- 大豆の主要な**ウイルス（SMVのA～E系統、PSV、SBMV）**に対して**抵抗性を有する**（表1）。
- **難裂莢性**のため、成熟後も莢が弾けにくく、**コンバイン収穫ロスを軽減できる**（表2、図2）。
- 「サチユタカ」と比較して粗タンパク質含有率がやや低いが、**豆腐加工適性は好適である**（表1）。

表1. 「はれごころ」の特性概要 2016-2022年
(2020-2021年を除く)

品種名		はれごころ	サチユタカ	タマホマレ
形質				
裂莢性		難	易	中
ウイルス抵抗性	SMV	A, A2, B, C, D, E	A, B	A, B
	PSV	R	S	R
	SBMV	R	S	S
紫斑病		強	強	中
子実の形状		偏球	偏球	球
播種日	(月・日)	6.14	6.14	6.14
開花期	(月・日)	7.30	7.30	7.29
成熟期	(月・日)	11.02	10.26	10.29
生育中の障害 (0~5)	倒伏	0.8	0.9	0.8
	ウイルス	0.0	0.4	0.0
	青立ち	0.3	0.3	0.9
主茎長	(cm)	55.2	56.1	60.2
主茎太	(mm)	10.4	10.6	9.8
分枝数	(本/株)	4.7	4.1	3.7
莢数	(莢/m ²)	656	630	771
最下着莢高	(cm)	14.9	16.0	17.8
精子実重	(kg/a)	28.5	27.7	27.5
比率	(%)	103	100	99
百粒重	(g)	29.8	32.0	27.5
障害粒発生程度 (0~5)	紫斑	0.1	0.3	0.7
	褐斑	0.0	0.3	0.0
	裂皮	0.2	0.6	0.3
	しわ	0.5	0.9	1.0
	汚損	0.1	0.0	0.2
等級	(1-11)	5.0	6.1	7.0
粗タンパク質含有率	(%)	44.5	45.5	41.4

注1) 調査場所：鳥取市橋本 農業試験場
 2) 裂莢性、ウイルス抵抗性、紫斑病は育成地情報
 3) 精子実重・百粒重は6.7mmふるい上で腐敗粒除去、水分13%換算
 4) 検査等級は1上~3下、特定加工、規格外の11段階



はれごころ



サチユタカ

乾燥処理による裂莢性の比較



株及び粒標本

(左：はれごころ、中：タマホマレ、右：サチユタカ)

表2. 裂莢率及びコンバイン収穫時の刈取口 2022年

品種名	裂莢率 (%)		刈取ロス精子実重 (kg/10a)
	自然裂莢	乾燥処理	
はれごころ	0.0	6.7	10.3
サチユタカ	1.7	93.3	12.8
タマホマレ	0.9	93.3	—

注1) 自然裂莢：成熟期後約1ヶ月立毛状態で放置した後の裂莢率
 乾燥処理：成熟期の充実した2粒莢を採取して種子貯蔵庫で保存した後、通風乾燥機で60℃3時間乾燥処理した裂莢率
 2) 刈取ロス試験：コンバイン収穫後、1.6m×1m範囲内について、未脱穀粒、排出粒、刈残しを調査対象とした

「はれごころ」は自然裂莢がみられず、乾燥処理による裂莢率も極端に低い。最下着莢高がやや低いが、刈取時の排出粒や裂莢による未収穫粒が少なく、刈取口ははやや少ない。

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 作物研究室 TEL: 0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい